

昔は革足袋おこなはれしゆゑ唯たびとのみいふが革足袋なり、數奇屋足袋は、則今の木綿足袋
なり、革足袋は數奇屋へはく事なし、木綿足袋は數奇屋へもはくゆゑに如此名づけしなり、吞海
味、天文廿三年茶書革袴革タビ二重ダウブク著スベカラズとあり、革タビとことわりしを見れば、天文
の頃も、木綿足袋は茶席へはきたるなるべし、

〔客之次第〕一ていしゆ茶の時、いゝやうを初と悉くきかへ申候により、昔は客も中立よりいゝや
うゑかへたる事にて候、近年は亭主ばかり著かへるなり、

〔槐記續編〕享保十六年四月廿四日、參候、總ジテ茶ノ湯ニ、中立ヨリ衣服著易ルコト、初メ花ヤカニ、
後シメヤカナルカ、初メシメヤカナル物ヲ著シ申ガヨキコトニ候ヤ、但シハジメハシメヤカニ、

後花ヤカナルガ宜候カト伺フ、仰ニ、○近衛家照夫ハ昔ヨリ咄ノアルコトナリ、嚴有殿○徳川家綱ノトキ、

病中ニ慰ニ皆々茶湯ヲ申付ラレタルニ、稻葉美濃守ガ中立以後、大小紋ノ衣服ニ花ヤカナル上
下ヲ著テ仕タルヲ、人々異風ナルコトニ思テ、此事ヲ片桐石見守ニ咄セシニ、石見守ガ云ケルハ、
ソコガ茶湯ナリ、必シモト兼テ定ラレヌ處ナリ、今度ノ茶ハ、大樹ノ御慰ニ被仰付タルコトナレ
バ、何ガナ珍敷コトニテ、慰ニナル様ニトノ心得尤ナリト被申シ由ニテ、此時代ノ咄ニナリタル
コトノ由ナリ、此事ヲ三菩提院殿○貞親王ヘハナシタリシ人ノアリシヲ、一門ノ仰ニ、ソレハ合點
ノ行ヌコトナリ、慰ニナラバ左様ノ事ニテナクトモ、如何様ニモ慰様アルベキコトナリ、衣服ヲ
異風ニシタテ、慰ニナル様ニト云フコトハ、茶ノ本意ニハアルベカラズ、合點ノ行ヌコトナリ
ト仰ラレタリ、總ジテ花ヤカナル衣服、シメリタル衣服ト云コトニハアラズ、著替ルハ初メヨリ
給仕ラシ、花ヲ生ケナドシテ、ケガレタル衣服ユエ、茶ヲ立ルニ臨テ改メ出ント云コトナレバ、衣
服ノモヤウニ心ハアルベカラズ、尤所ニモ客ニモ場ニモ時節ニモヨルベキコト、著カヘヌコト
モアルベシ、必ズシモト云コトニハアルベカラズ、